

## 会 議 録（未定稿）

会議名称	第四次西東京市地域福祉活動計画 第8回策定委員会
日 時	平成30年8月28日（火）午後7時～9時
会 場	田無総合福祉センター2F 視聴覚室
出席者	(策定委員) 中村委員・多田委員・岸田委員・熊田委員・坂口委員・海老澤委員・三輪委員・鈴木委員・伊東委員・藤島委員 (事務局) 池田・鶴野・小平・小口・浜名・妻屋・山田・関根・丸木・松山・本間・齊藤 (コンサルタント) 新橋、小林<株式会社 ジャパンインターナショナル総合研究所>
欠席者	小林委員・伊田委員・横山委員
配付資料	《事前配布資料》 資料1 第7回策定委員会会議録（案） 資料2 第四次西東京市地域福祉活動計画 骨子案 資料3 第2章、第3章、4章原稿案 《当日配布資料》 資料1-1 第7回策定委員会会議録（未定稿） 資料2-1 「SDGs 17の目標」 資料4 体系の考え方整理(案)（第6章関係） 資料5 各論レイアウト案（第7章関係） 資料6 アクションプラン一覧表（第7章関係） 資料7 計画作成の工程イメージ
次 第	1. 第7回（平成30年7月31日開催）会議録の確認について 2. 第四次西東京市地域福祉活動計画 骨子案について 3. 第四次西東京市地域福祉活動計画 「施策の展開」各論レイアウト案について 4. その他 5. 次回以降の日程、会場
決定事項	・ ・
会議の内容 及び 主な発言	※次ページの通り

## 会議の内容及び主な発言

### 1. 第7回会議録の確認について

(副委員長)

- ・「第7回策定委員会会議録」について、この場で気がついたものがあればご指摘いただきたい。

(委員)

- ・3ページの二行目(60行目)の(委員長)発言部分(文章)の最後に、「(発言者名)」が記載されている。次に発言者した委員の名前なので、改行するものである。

(副委員長)

- ・60行目「～を示している。」のあとの「(発言者名)」は、改行して、委員の発言とする。

(副委員長)

- ・何かあれば、いつもどおり金曜日までに事務局にお寄せいただきたい。もし指摘があった場合は、次回反映したものを示していただく。

### 2. 第四次西東京市地域福祉活動計画 骨子案について

- ・事務局より資料2「第四次西東京市地域福祉活動計画骨子案」について説明

(副委員長)

- ・SDGsについて少し時間をいただき説明する。昨日、全国社会福祉協議会の会議において、SDGsについて議題に上がった。企業から派遣された方が「企業から見たSDGsと地域の活動」という話をされ、私は「社会福祉・地域福祉とSDGs」について話をした。世界的な共通目標と言うとグローバルな感じがするが、世界的な「各地域の」目標と考えていただきたい。

- ・副委員長より資料2-1「SDGs 17の目標」について説明

(事務局)

- ・事務局より資料2「第四次西東京市地域福祉活動計画骨子案」について説明

【質疑・検討事項等】

(副委員長)

- ・ここでは、第1章の「計画の背景、概要」部分の協議をお願いしたい。何か意見等はないか。

(委員)

- ・東社協の動向のところ、「東京らしい“地域共生社会づくり”のあり方について」のあとに(中間まとめ)とつけ加えていただきたい。今年度最終まとめを出す予定だが、「地域福祉推進に関する提言2018」は中間まとめの内容であるため。

- ・SDGsについて、東社協にも「SDGsを取り入れて計画を策定しているところはあるか」と問い合わせがあり、確認したところ近辺では初だと思う。先進的な取り組みのため、どのようになるか楽しみにしている。

(副委員長)

- ・私が聞いたところでは黒部市社協が活動計画を策定中で、やはりSDGsについて取り上げようとしているようだ。他にはないか。

(委員長)

- ・SDGsについて、基本的なこととして、「17の目標」というのはなぜ17個なのか。

(副委員長)

- 一度整理されたものが 169 個あり、それを集約したものが 17 個であった。169 個の項目をみると、分野がものすごく細かく、幅広いので、それを 17 個までしぼりこんだものである。

(委員長)

- 都内では初めてであり、全国でも SDGs を計画に落とし込んでいるところは無い。載せるのであれば具体性を持って意味のある形で載せた方が良い。具体的に計画を策定する段階に入った際、SDGs についてもどう示していくのか検討すべきである。

(副委員長)

- 「未来都市 29」についても、見ていただきたい。(別紙 回覧) 他に質問、意見はないか。

(委員)

- 私は「第四次西東京市地域福祉活動計画」の策定委員として参加しているが、第一次～三次を踏まえているにも関わらず、世界規模の内容を入れ込むという仕組みがよくわからない。

(事務局)

- 今行っている事業においても SDGs に該当するものは多々あると思う。SDGs に合わせるのではなく、今行っている事業が SDGs にどのように当てはまるのかを今後検討していきたい。計画を策定する中で SDGs という新しい考え方を導入していくものであり、それを目標にするという事ではない。副委員長からも補足等あればお願いしたい。

(副委員長)

- 「地域共生社会」「我が事・丸ごと」とともに厚労省からの発信だが、SDGs は福祉の分野だけではなく、もっと広い分野を含めてのことになる。新たな、あるいは地域共生社会の話で言えば、国内の流れを取り組んでいくことにより次の展開への可能性を探るというものになる。時流に乗ってやるということではなく、これ自体が様々な分野の方々の議論から生まれているものである。計画に落とし込んでいくと、結果的に今やっていることになるのは間違いない。ただ一つ言えるのは、SDGs は、社協だけでなく NPO や企業を含めた他のセクター、生協・労組・青年会議所・商工会・福祉団体等、様々な分野の地域の関係者、ステークホルダーが連携、協働していくための一つのキーワードである。ボランティアセンターでも全社協の強化方策として「多者協働」が謳われている。地域丸ごと皆で取り組むことを世界的な言い方をすることで、SDGs を取り入れてはどうかと考える。最終的には突拍子もないという感覚にはならないと思う。

(委員長)

- 私の方からも補足する。一つは、例えば西東京市における計画策定の中で、生活困窮者の課題を考えるということが挙げた時に、西東京市だけでなく世界的にも貧困は普遍的な問題だということを、SDGs の考え方を導入することにより示すことができる。どういう意味があるのかといえば、貧困は世界的な問題であるということを示すことができるということだ。もう一つは、SDGs という言葉を初めて聞かれたという委員が多いと思うが、私の関わっているネットワークの中でも、今後これが重要になるのは間違いないようだという見解である。SDGs を計画に取り入れることにより、今こういった取り組みが求められており、知っておかなければいけないということを市民に広く普及する意味もある。取り扱いについては細かく議論があると思うが、SDGs は一過性のものではなく今後も普遍的に続いていくものだろうし、啓発といった意味を含めて計画に載せることに賛成する。私と副委員長は賛成だが、いろいろと意見はあると思うため、忌憚なく議論したいと思う。

(委員)

- SDGs は私も初めて聞いた言葉で、わからないためお聞きしたい。ターゲットが 169 あるということだが、これは世界共通のものなのか。

(副委員長)

- 世界共通のものであり、169 のターゲットの中には、途上国をターゲットにしたものも含まれているため、西東京市で 169 全てに合致することはまずない。例えばジフテリアの撲滅等を含め 169 のうち、日本ではその中の 20~30 が該当するかと思う。世界各国の問題に対し、連帯感を持つためにということである。北海道では新たに追加して地域の目標を作っており、こういうことも可能なことと考える。

(委員)

- この「マーク」は、日本で作成したものなのか。

(副委員長)

- この 17 のマークは世界共通である。ただ、例えば「貧困」という項目は共通だが、途上国のものと日本国内のそれはだいぶ違う。169 の中身を見ると「貧困」の中にも小さい目標がたくさんあり、そのうち日本ではこれに当てはまるだろうということがわかる。

(委員)

- 理解した。

(副委員長)

- 169 については、インターネットで検索するとすぐに出てくる。

(委員)

- SDGs が掲げている目標と西東京市で考えていこうとするものが同じというのは、この項目を見てもよくわかる。しかし、先ほど発言した意図は、先に言葉が一人歩きをしまわれないような、含みを持ったものにしてほしいという意味である。例えば「西東京スタイル」や地域の「サロン」という言葉は、関係している私達には耳に馴染んでいてわかりやすいが、それを知らない人もいる。先ほど委員長も啓発といわれたが、このように世界が動いている中、西東京市民が自らの問題として掲げ、そして生み出された計画が作成され、市民の手に渡って欲しい。

(副委員長)

- だからこそ、資料の 1 ページ目の 4 番目に書かれており、1 番目では決して無い。どちらかと言えば、「地域共生社会」あるいは「我が事・丸ごと」といった言葉が巷の新しい言葉として全面的に出るだろう。ただ、広く世界的にも SDGs という取り組みがある、ということの説明が 4 番目に記してあるという感覚かと思う。

(委員)

- 何年も前の話だが、「シンクグローバリー・アクトローカリー」という言葉を教育の現場でも言っていた。世界的という視点を持ちながら行動としては地域の具体的な一つ一つのことをやっっていこうという意味で、とても良い言葉だと思ったのを思い出した。やはり「持続可能な」というのが地球規模で現実的になってきている。どこかの地域の一人よがりや、自分の地域さえよければ、自分さえ良ければとなりがちなところを、地球全体の危機でありどこに住んでいても考えなければならない問題ということを念頭に置き、世界皆が同じ持続可能な目標を目指そうというのは理想的。ただやれることは目の前の小さな事であるが、世界に繋がっているという浪漫があり、賛成したい。

(副委員長)

- この部分については SDGs 以外にも大事な要素が文章に含まれており、何かあれば議論していただけたらと思う。第二章に移る。
- 事務局より資料 3 「第 2 章、第 3 章、4 章原稿案」について説明。

(副委員長)

- 第2章は、詳細なデータの部分が資料編に移動し、第3章については、第三次の計画の推進は、8つの活動内容を実現することであるから、推進部会ではなく、8つの活動内容についての成果という形に変わったことと、継続的な課題については今回のアンケートを含めて今後必要な取り組みを次の第4章で謳うということである。何か質問、意見があるか。

(委員)

- 第四章の表題は「今後の必要な取り組み」となっているが、取り組みがメインなのか。今回は課題部分を太文字にしたということだが、読み手側からすると取り組みは下の方にあり、目立つのは課題である。

(副委員長)

- 枠組み内にある課題に対して、少し大きく書かれている1～10番の部分が取り組みということの良いのか。取り組みということであれば、例えば「1. 地域におけるつながり」とあるが、「地域におけるつながりの強化」ということか。

(事務局)

- 表題の取り組みの下に「西東京市の現状、市民アンケートの結果、各懇談会の結果、第三次西東京市地域福祉活動計画の取り組みと成果から見える課題を、以下のように10項目に取りまとめました。」とあるため、表題自体を「課題」とする。こちらは課題をまとめたもの「10項目」というように読み換えていただきたい。

(事務局)

- こちらの課題をもとにして今後施策の展開を書いていくため、こちらは「取り組み」ではなく「課題」で置き換えいただきたい。

(副委員長)

- その他の部分も意見があればお願いしたい。第五章に移る。
- コンサルタントより資料2「第四次西東京市地域福祉活動計画骨子案」について説明

(副委員長)

- 整理すると、基本目標が体言止めであり、それに対してその目標は10個の福祉課題を解決するにあたっての目標という位置づけである。福祉課題のところも、もう少し検討すると言葉遣いを検討すべき箇所も出てくるかもしれない。
- この後の具体的な施策「基本目標に対してどのように対策していくのか」ということについて議論していただきたい。もちろん現行のものの改善でも良いし、新たな事業の可能性をご提示いただいても良い。本日はここの議論に時間を使いたい。資料4「第四次西東京市地域福祉活動計画 体系の考え方整理(案)」について説明がなかったが、これは基本目標と福祉課題をまとめており、そこに前回までの皆さんからの意見を掲載した。皆さんに意見をいただきたいのは施策の案「目標を達成するためにどのようなことに取り組むか」ということである。どの部分からでも構わないので意見をお願いしたい。事務局からも9～10月には、アクションプランPTによる施策案が出るが、その前の参考案としてどんどん出して欲しい。

(委員)

- 質問だが、具体的な施策のところを出すものはコンパクトなわかりやすいものが良いのか。例えば第三次で出たような「8つの行動」のようなボリュームを予定しているのか。

(副委員長)

- 事務局はどうか。

(事務局)

- 今10の課題が出ているが、例えば「地域におけるつながり」では、地域でつながりを作るためにはどう取り組むかについて、現在、さまざまなまちづくり事業やほっとネット事業で取り組んでいるが、「さらにこのようにすればもっと地域のつながりができるのではないか」というような、社協でもすでに行っているがそれに加味していくような取り組みがあると良い。また、もし新たなものが必要であるという意見が出てきた場合は、事業を立ち上げることも大事であると考えているため、課題についても意見をいただきたい。

(副委員長)

- どんどん出せば良いということである。他にあるか。

(委員)

- サロンや居場所というものについて、多様なものがあるのは良いが情報としてわかりにくいと市民からよく聞く。このエリアの中でいろいろな機関が実施しているものが一目でわかるような情報提供体制の充実が必要である。

(委員)

- 同じく情報提供体制について、西東京市において「サロン」の定義があるか調べたところ、市民に向けての明確なものがなかった。せっかくサロン活動が活発なのだから、社協などで今あるものを具体的にまとめ、受け手側にわかりやすく説明できるものがあれば良い。

(委員)

- 本日、西原地域の方たちと災害のためのネットワークについて研修・講演会を行ったが、多職種を対象に安全・安心のための地域づくりができるのが社協かと思う。「地域のコミュニティへの参加の促進」のところに、災害を視野に入れた日常の繋がりといったものがあると良い。

(委員)

- ようやく拠点事業の8か所目まで達成できお披露目会にも行ったが、やはり居場所というのは大変望まれている。子ども食堂が今3ヶ所開かれており、この活動を必要とする子どもが来るようになってきているが、中には子どもの声がうるさい、気に触るといふ苦情がきているようだ。居場所というものが地域の中でどれだけ知られ理解されているか、どのように宣伝すれば良いのか検討し、もっと地域の人に理解してもらうことが今後必要である。また子どものことについて、私は学習支援の取り組みをしている中で、小学生で不登校の子や親がどこかに連れていけない家庭の子が紹介されて来るが、結局学区域から遠いと子どもだけでは通いきれないという状況である。子どもだけで行ける範囲によりたくさんそういった場所があると良い。

(委員)

- 先ほど委員が話されていた会議で、自分たちのグループはほとんど発言がなく、フードドライブ等の話をすると知らない方が多かった。私たちは、居場所づくりや住民懇談会、市の会議に出ているため大まかな概要がわかっているが、今日参加された方は、各介護施設のケアマネージャー等専門的な知識もある方々だったが、それでも意味がわからない様子であった。地域の現場はそのような状況である。市民が情報を知る機会を持っていて、専門家がそれを持っていないという矛盾を感じた。

(副委員長)

- 新たな動きがいろいろと出てきているが、それぞれのテリトリーから出ない、出ようとしなないことから、状況を共有できず困惑することがたくさん起こっているということだろうか。

(委員)

- 地域住民の担い手の人材育成も大事だが、福祉や介護等専門職の人たちも地域住民であり、担い手と考えると、そういう人たちの地域福祉の育成を理解してもらうのも社協の役割の一つだ

と思った。

(委員)

- ・アクションプランの14番や15番について、会員会費の拡充や寄付金・歳末たすけあい募金は毎年協力しているが、もう少し頑張れば増やせるのではと思う。いつも謳われてはいる課題であるが、具体的にどうして欲しいかを強く示さないことから、現状維持あるいは減っているのではと思う。もう少し具体的に、このようにすすめて欲しいというように謳っていったらどうか。

(副委員長)

- ・私が関わっている組織では、外部の資金調達の専門家を入れたチームを作るところだ。外からの知恵を参入させるようなものも、次期の計画では掲載しても良いかと考える。

(委員)

- ・居場所づくりをやっているが、住宅街にある拠点で活動する中で、付近の住民のごく一部に市や社協に電話をし、苦情をおっしゃる方がいる。一部の強烈な苦情のために活動が制限されている。そのために活動を停止し、撤退している団体もある。私達は居場所づくりを良いことだという前提で行っているが、市民の中にはそのように理解されない方もいる。今後この計画を発展させるのであれば、そういう市民も巻き込んでやれるような活動計画にすることが必要である。ただ数を増やせば良いというものではなく、必ずしも市民が理解できていない部分もあるため、そこも含めて活動計画にしていかなければならない。

(委員)

- ・一方で、居場所や集まりの場というのは高齢者の方に有効に働いていると感じる。しかしその度合いは地域の中で偏りがあるし、市民の方からも「活動はしたいけど場所がない」、「場所取りが何より大変だ」ということをよく聞く。認知症のオレンジカフェが二箇所できる予定だが、いろいろな老人ホームの協力を得て、施設で行うという形をとっている。社協の役割として、空き家を使う等もあるが、いろいろな企業や介護施設と協力しながら展開していくことも大事である。

(副委員長)

- ・いろいろな取り組みや人材を、分野が違うため全く知らなかったということがある。地域共生社会や丸ごと、SDGsというキーワードで「皆で」取り組むにあたり、社協に関わりのある人やネットワークという財産を一度棚卸しして、一つに集めたデータベースを作った方が良い。地域担当の職員個人が持っているデータベースを開くことも必要である。同時にこれまで社協と関わりのなかった分野、またゆめこらぼ等が持っている分野等を含めて、この地域の知恵を集めたものがあったとしても良いのではないかと思った。

(委員)

- ・私もいろいろなところへ行き、皆と話をするが、例えば自治会が西東京市には少ない、どうすれば増やせるかという話で、皆どう答えていいかわからないというのが現状。情報共有の必要性について、いろいろなところで叫ばれるが、名簿にしても個人情報だからと教えてもらえない場合が多い。防災についても、どこに誰がいて、どういう人がいるのかということは私たちには掴めない。マンションや戸建てからどのように引き出すかとなると、皆すごく困っている。また認知症カフェにもボランティアで参加しているが、介護する家族の方はどこに行って相談すれば良いのかと聞かれる。ケアマネ等に相談してみても、なかなか聞けないとのこと。カフェに来て理解して帰られたのかと思い、後日電話で聞いてみるが、やはり解決にはつながっていないようだ。

(副委員長)

- ・個人情報については普遍的な問題で、この地域だけに限らない悩みである。実際に悪用する方もたくさんいるため難しいところである。

(委員)

- 東社協のワーキングでも行っている「コーディネーターと社会福祉法人のネットワークと、社協の連携」も理想論で、まだ連携できておらずお互いの存在も知らない状態である。社会福祉法人の方から地域福祉コーディネーターとは何か、どこにいるのかと聞かれたりもする。社協では当たり前と思われていることが、同じ福祉業界でも知られていないということが普通で、まだそういうレベルである。その段階にある中でまずはお互いを知るという取り組みをしていくべきである。先週、民生委員さんの常任協議会の研修に参加したが、社協の地域福祉コーディネーターの活動を知るといった内容であった。民生委員さんたちにもコーディネーターを知らない方がたくさんいたし、コーディネーターの方でも今後民生委員さんと連携していきたいと報告をしていた。やはりそういうところから地道に取り組んでいかないと、三者の連携はそんな簡単にできることではない。包括的な支援という前に、お互いを知るための取り組みが必要か考える。

(委員)

- コーディネーター事業を西東京市は何年も前からやっているが、都内でもまだやっていないところもある。西東京市でも最初は1ヶ所で取り組み、そこから増えたが、まだ100%は機能していないかと思う。

(副委員長)

- 東京都でも増やしていくということが書いてある。西東京市は早かったため、外に好事例として発表していく立場かもしれない。

(委員)

- 一人ひとりがアンテナを張っているといかに繋がっていくかということである。私もチャオをやっていて、そこに生活支援コーディネーターの方や参加者が集い、話をしていると、これはどうだろうと思った時に、ひとつずつ問題が解決していくこともある。つまり、市民一人ひとりが自分を高めていくために何ができるかということ、考えられる計画にすることが理想である。以前専門の方が来た際に、「西東京市というサロンとは何か、このサロンにはどのように行くのか」と聞かれ、福祉業界の方でも、「パーマ屋さんだと思った」と言われてしまう。そのような意識の方もまだいる。少しずつレベルを底上げしていくことが必要だし、知っている人は横に広げていくことも大事かと思う。例えば災害に関して今回西原町包括がやっている研修・講演会はすごく素敵なもので、その地域で発信者がいてくれてやっていることである。これを次の地域でも同じことをやって、この地域の問題意識と西原町包括のそれと違うなという部分を、各地域の包括さん同士が繋がり共有し、全市民が同じことを共有する。そのような仕組みを社協で作っていただきたい。良いことは取り入れていけば、それが横に広がり一人ひとりができるようになるのではないかと。サロンにしても、参加者の中から今度は担い手になっていく人を広げてもらいたい。今私は高齢者住宅の協力員をやっているが、避難訓練を行った際に入居している方と同じくらいの数の見守り隊、社協、包括、民生委員の方など、たくさんの方が来てくれた。一人暮らしで不安を抱える高齢者がほとんどだが、これだけの人に守ってもらっているんだと思ったらすごく安心したという声が多かった。今までは米の炊き出しを民生委員さんをお願いしていたのを自分でやってみたり、箱を開けるところからやってみたり、避難の場所に歩いて行ってみたい、そのように自分で動くとか何かが見えてくる。そして問題も見えてきて、この中で不具合のある方や不自由な方をフォローするためにこの人をつけようとか、そういう声が自ら出てきた。そういった支援を地域でできると良いと思う。人材育成の中では専門家同士の連携も大事だし、私たち一人ひとりがやっていくことも大事だということも皆にわかってほしい。

(副委員長)

- 事例が繋がって次に波及していくということと、これまで全く関係ない分野の人同士が繋がっていくという意味では、福祉関係者同士の賀詞交換会のようなものやってもいいかもしれない。ゆめこらぼではNPO市民フェスティバルというものもやっているが、単にブース開示だ



けではなくもう少しオープンに議論する場があっても良いかもしれない。

(委員)

- ・サロン活動について、居場所というものの定義を計画の中に入れるべきだ。必ずしもサロン活動だけが居場所ではなく、極端に言えば図書館やコンビニの飲食スペースなどでもその人がほっと一息つけるなら居場所である。私たちが考える居場所の計画は、それとは違うものを想定しているのではと思うため定義が必要ではないか。これまで利用者をどのように確保してきたかということに関して言えば、各家庭に閉じこもっている方を見つけ出すのは至難で、やはり地域包括支援センターや社協からの紹介で来てもらうことが一番多い。もう少し民生委員とのパイプを増やしたい。地域の方と親しくされていて情報を持っていると思う。例えば一人でこもっている方がいれば紹介してもらいたい。何よりもまず民生委員の方にもサロン活動を見に来て欲しい。職員の方に来てもらい、これなら安心して任せられると納得してもらえるサロンであるべきだろうと考える。課題として、民生委員や自治会の幹部等とのネットワークができていないことがある。今後の計画の中でネットワークの構築は非常に大事かと思う。サロンにも、ある時期が来るとそれきり来なくなる人がいて、次々と新しい利用者の方を見つけなければ活動自体が続かないことを懸念している。

(副委員長)

- ・皆さんカテゴリーに入れて話そうとしておられるが、それは事務局がやってくれるので、どんどん話していただきたい。

(委員)

- ・私が言いたいのは4番目の「地域福祉に関わる活動の人材育成」のところである。市の事業「ミニデイ」というのを社協から場所を提供してもらいやっているが数は減っている。皆さん高齢になってきて活動する人が減っているため、サロンや居場所を閉鎖することになる。私も自分の地域のところで人材を探すということをやっているがなかなか難しい。どうすれば活動できる方を探し出せるか、どのようにサロン活動でリーダーシップを取れる人材を育成すべきか、そのあたりを社協はどう捉えているのか。

(副委員長)

- ・そういう意味では育成だけでなく発掘や、発見というのも必要である。例えばボランティアセンターとゆめこらぼにしてもそれぞれ地域で活動して、NPOの方も地域で活動しているが地域包括の人とは接点がないということもよくある。発見をする、あるいは0からの発掘をする、そこからの育成という話になる。ボランティアセンターやゆめこらぼもそうだがNPO法人に限っても20分野にも分かれているため、他の分野の方と繋がるための機会作りが必要である。例えば環境系の団体はたくさんの詳細な分野に分かれていて、アースデーなどでその分野を超えてつながろうとしている。福祉という切り口ではないが、地域の中でゴミ拾いをしている人や(修正)、緑を増やそうとしている人たちと繋がるという手もあるかと思う。分野は違って繋がる機会は作れるというのが、SDGsの考え方でもある。

(委員)

- ・ゆめこらぼがアスタのセンターコートでフェスティバルをするようになって、それぞれ隣同士のパネルになった団体と、今度一緒にやりましょうという話になることもある。また開かれた場所でやると買い物に来た人が見ていってくれて、その中でいろいろな関わりが出てくる。地域でいろいろな活動をやっていても、働いていたり忙しいと何も知らなかったりする。どれだけ目にする機会を作るかが重要である。買い物の合間に商店街のようなところでふらっと活動がみえるような、例えば空き店舗でどんな団体でも使えるブースを作るだとか、通りすがりの人が入れるような場所があっても良いかと思う。サロン等は閉鎖的な感じもあり、入りづらい面もあるため、知るきっかけを増やす工夫が必要である。もう一つは、この夏、うちの学習支援の所に中学生一人と高校生一人が学校の課題として取材や体験をさせて欲しいと来たことがあった。どのようにうちを知ったのかと尋ねると、インターネットを使い近

くで自分の感心があるものを調べたとのこと。若い人達にインターネットで取り組みを見てもらうため、Facebook 等で西東京市でやっている活動が目に触れる機会を増やし、ボランティアで行ってみようと思ってもらえるような宣伝活動も重視して欲しい。

(副委員長)

- ・私も3つほどある。一つ目は、全社協会議でも話が出たが、これだけ災害が多いと災害ボランティアセンターの常設化を考えなければということである。西東京市では、災害という点ではボランティアに来てもらうというよりは出す方が多いかもしれない。防災は誰にでも関係することで、外に出ていく災害ボランティアの育成は必要であると思う。二つ目は、福祉の視点に立った子ども食堂のネットワークについてである。どんどん数は増えているが、ご飯を出して終わりとなっているところから、声を拾って次の支援につなげていくという立場におけるネットワーク、単なる連絡協議会ではない部分は社協もやるべきである。三つ目は、武蔵野市でも取り組んでいるが、西東京市でも今創業支援が盛んになっている。創業しようとしている人たちと地域福祉という切り口でつながること。例えば個人事業主の人たちが、練馬区の有料老人ホームの一角にあるコミュニティカフェで地域の高齢者だけでなく多世代の人を巻き込んだイベント作りをやっている。創業支援と地域福祉という切り口も新しく、これまでの人材とは違う人たちと出会える。本日はたくさん案が出たがまとめはお任せする。事務局で施策の会議はいつするのか。

(事務局)

- ・施策の会議についてはこれを受けて、アクションプランの見直しも含め検討を進めているところ。皆からいただいた意見も加味するため、現在は平行で進めている状況である。

(副委員長)

- ・次の会議に提案が出るのか。

(事務局)

- ・資料7より次回9月25日に素案を出すとなっているため、来月には大枠を出す予定。

(副委員長)

- ・まだこれからも案が出そうなので、思いついた際はメール等で意見を寄せていただきたい。来週末くらいを目処に、一人3つくらいをお願いしたい。次第3に移る。

### 3. 第四次西東京市地域福祉活動計画 「施策の展開」各論レイアウト案について

- ・事務局、コンサルタントより資料5「各論レイアウト案」について説明

【質疑・検討事項等】

(副委員長)

- ・先ほどの体系のところからの流れということでそのレイアウトの説明。もちろん少しずつ変わってくると思うが、次回以降議論する内容は、「目標達成に向けた主な取り組み」のところとなる。この段階で質問、意見はあるか。

(委員長)

- ・本日の話の中で、具体的にどのように実現していくかは重要なところである。一点、市の計画の動きの情報提供になるが、西東京市の中では、いわゆる3ネットワークと言われるふれまち、ささえあい、ほっとネット、この3つについて、わかりにくいという意見がずっと出ており、これに向き合おうという動きがある。本日の話でも、ずっと取り組んでいるが知らないという話が出ており、その最たるものが3ネットワークだと思う。頑張っている当事者はわかっているが、一般市民はよくわかっていない。そこを何とかしないといけないということで、社協と市、委員長と副委員長含め、9月中に一度話し合いたいと思っている。この委員会の中

でもその結果について伝えられると思うが、その際はまたご意見いただきたい。実はそのような動きもあるため、ご協力いただければと思う。

#### 4. その他

- 事務局より資料7「計画書作成の工程イメージ」について説明

(副委員長)

- 本日は本当に良い議論ができたと思う。ぜひ来週末までに社協にアイデアを寄せていただきたい。

#### 5. 次回以降の日程、会場

- 日時 平成30年9月25日(火) 19時~21時
- 会場 田無総合福祉センター(2F) 視聴覚室